



長峰山山頂より北アルプスを望む

A JR篠ノ井線田沢駅から明科駅コース・・・約13.5km・約4時間半

あかしな

●田沢駅 → ●光城山登山口 → ●光城山山頂 → ●天平の森

●長峰山山頂 → ●長峰荘 → ●明科駅

長峰荘から光城山登山口へ戻る場合 ●長峰荘 → ●光城山登山口

B JR篠ノ井線明科駅から里山に親しむコース・・・約13.5km・約4時間

あかしな

●JR明科駅 → ●長峰山山頂 → ●天平の森 → ●里山の棚田

●清水光久寺 → ●JR明科駅

長峰山 標高933.5m

安曇野の東に位置し、犀川、高瀬川、穂高川の三川合流の地を眼下に見おろす長峰山は、昭和45年、作家の川端康成氏・井上靖氏と日本画家の東山魁夷氏が一同に会し、峻険な北アルプス連邦と山懐に広がる緑豊かな田園地帯「安曇野」の景色に感銘し「残したい静けさ・美しさ」と絶賛しました。

「槍や穂高は隠れて見えぬ 見えぬ辺りが穂穂高 槍で別れて、梓と高瀬、めぐり合うのが押野崎」と安曇節に歌われている様に幾筋もの川が明科の地でひとつつになり善光寺平へと流れ下るのがわかります。

北アルプスが一望できる絶好のビューポイントで、展望台前の広場はハングライダー・パラグライダーの基地として利用されています。

（詳しくは、安曇野里山ガイド 長峰山～光城山「里山とともに」に掲載されています。ご希望の方は特定非営利活動法人森倶楽部 21 永田0263-58-0360まで）

【塔ノ原城址】
東信の豪族海野氏一族 塔ノ原氏の山城 武田信玄の攻撃を聞き自落したとされています。

【金玉池】
巨人「でいらぼっちゃ」がどっこいしょと座った跡が水溜りになったといわれています。

長峰山山頂の桜の見頃 4月中旬～下旬
山頂自生あやめの見頃 5月下旬



光城山 標高911.7m

長峰山の南にある光城山は、1500本のソメイヨシノが遊歩道に沿って標高差 400 mの山の斜面を駆け上がります。桜の回廊を抜け山頂に立つと眼前に北アルプス、眼下にピンクの絨毯が広がります。

（桜の時期：4月中旬～5月上旬）

【光城址】 海野氏の一族 光氏によって築かれた山城ノロシを使い連絡しあう役目もあったと思われる。山頂には火の守り神を祀る古峯神社があります。

安曇野の道祖神

安曇野は道祖神の宝庫。さへの神とも言われ集落の中心や道の辻、三叉路などに立ち、悪霊や疫病など邪悪なものが集落に入り込まないように祀られてきました。

石に刻まれた神様のお姿に意味があり、目的があります。昔からこの地を見守ってきた道祖神に出会えたら思いを馳せてみてください。

④ ⑤ ⑥

安曇野展望 光城山・長峰山コース



廃線敷

C 廃線敷コース・・・片道約6km・約2時間半

●JR明科駅 ↔ ●潮神明宮 ↔ ●三五山トンネル ↔ ●東平（北アルプス展望）

●けやきの森自然園 ↔ ●漆久保トンネル ↔ ●潮沢信号場

●旧第2白坂トンネル入口（駐車場）



⑧ けやきの森自然園 ⑨ 小沢隧道

篠ノ井線の歴史

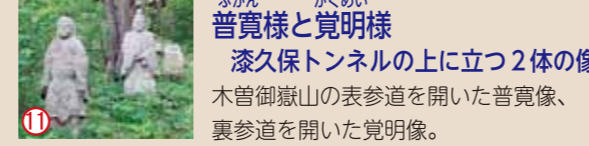
1897年（明治30年） 三五山トンネル入口で煉瓦工場開業
1900年（明治33年） 11月 篠ノ井—西条間開業
1902年（明治35年） 6月 西条—松本間開業
12月 塩尻まで篠ノ井線全線開通

※開通当時 長野—松本間は2時間半～3時間10分
1日4往復 運賃は1等88銭 2等57銭
現在 長野—松本間は1時間20分

1956年（昭和31年） 明科—塩尻間 ディーゼル車運行開始
1961年（昭和36年） 潮沢信号場開設 スイッチバック式
1970年（昭和45年） 蒸気機関車廃止
1973年（昭和48年） 松本—篠ノ井間電化
1974年（昭和49年） 西条—明科間 新線敷設工事開始
1988年（昭和63年） 新線開通

※篠ノ井—塩尻間67.9kmから66.7kmとなり1.2km短縮される

86年間人と荷物の足を務め暮を閉じた旧国鉄篠ノ井線がトレッキングコースとして生まれ変わりました。



このトンネルの上を通る細い道は大昔の善光寺道で、ここから山を登り柏尾の峰に出て名九鬼の上に出る近道でした。そこから矢越や池桜の峠を越えて、善光寺への道を通ったといわれています。この2体の像は道を通る旅人の安全を願って祀られたと思われます。

昔・昔

戦国時代の山城や見張り所、館に関する地名が多く、塔ノ原氏、会田氏、青柳氏、日岐氏が勢力を伸ばし、潮沢は境界線となってお互いを監視していました。鉄道開通までの交通運輸機関は松本白板から木戸へ犀川通舟（信州新町まで）があり犀川各所には渡し舟がありました。篠ノ井線の開通とともにない、運送店、商店、旅館が集まり、人口も増えました。産業は葉たばこ、木炭、養蚕、めん羊飼育などです。

※三五山から白坂までの20haに約3万本のけやき林 フィトンチッド・・・森林の爽やかな空気・香りの正体で、身体をリフレッシュ

旧篠ノ井線の西条—明科間は山や谷が多く、山肌や岩を削り、深い谷を埋めた難工事の末、線路が敷かれました。明科駅から西条駅の間に大小5個のトンネルのうち、漆久保トンネル・三五山トンネルは明科で焼かれた煉瓦が使われており、明治時代の面影が色濃く残る総煉瓦造りです。三五山トンネルは現在、主に緊急時の避難路としての用途を果たし、トンネル内は薄明りのランプで照らされています。

さごやま 三五山トンネル（全長125メートル） うるしきぼ 漆久保トンネル（全長53メートル）



⑦ 三五山トンネル（平成22年4月開通） ⑩ 漆久保トンネル（平成21年4月開通）

潮沢の伝説

もみじ鬼神 矢本寺縁起
有明山に住む八面大王の奥さんのもみじ鬼神が物見岩に住み着き、夜は里に出て田畑を荒らし人家をおびやかしたので朝廷に出願しました。坂上田村麻呂の軍は竹の花観音様のお告げにより牛伏すの疾風無逆牛という牛に乗りかぶら矢を打って退治したといわれています。

鬼首大明神 鬼が泣き泣き逃げて死んだ所を名九鬼（なぐぎ）といい、鬼は死んでも生き返るので、体を刻み頭と尾を埋めた所を柏尾（かしお）といいます。ここには鬼首大明神を祀るお宮があります。かぶら矢を放った所を矢本（やもと）、矢の通った所を矢下沢（やししたざわ）、矢が越えていった所を矢越（やごせ）、牛をつないだ地を潮（うしお）、田村麻呂が15日間陣取ったので三五山（さごやま）といわれています。

「うるわしきふるさと東川手」東川手の歴史を語る会

平家の話
名九鬼は全戸が降幡姓であり、名九鬼に残っている古い書物の一部や信府統記旧俗伝によると名九鬼の一族は平氏の落人だったのではないかとされています。

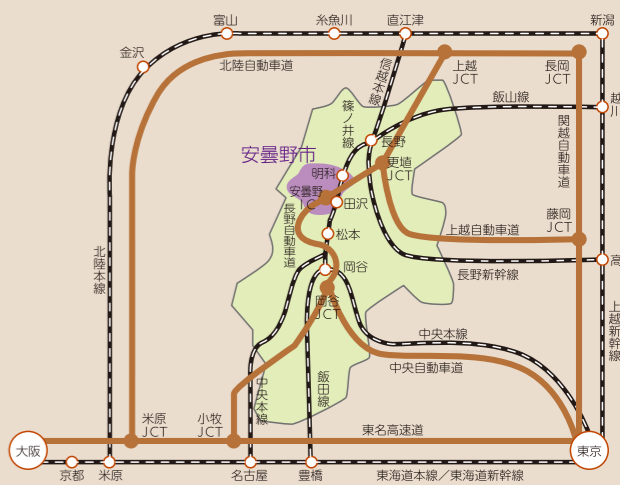
「東川手その苦闘と誇り」昭和55年5月10日 東川手のあゆみ保存のついで

降幡備前守の墓

明治の軌跡 旧国鉄篠ノ井線廃線敷コース



アクセス



電車を利用する場合

- 東京方面 長野新幹線を利用し長野駅で乗換、約1時間で明科駅・田沢駅下車
- 名古屋方面 中央本線特急しなのを利用し、松本駅で篠ノ井線に乗換（明科駅停車の特急しなのもあります）

明科駅から旧第2白坂トンネル入口まで、タクシー15分（約2,000円）

車を利用する場合 東京・名古屋方面
中央自動車道の岡谷JCTから長野自動車道へ 安曇野IC下車
光城山登山口駐車場まで約5分（大型車通行不可）
旧第2白坂トンネル入口駐車場まで約35分（大型車駐車可）

明科駅前からのタクシー
明科第一交通 0263-82-2306 南安タクシー 0263-62-2348
安曇観光タクシー 0263-82-3113 バイタル 0263-72-6688

問合せ

安曇野市商工観光部観光課
長野県安曇野市穂高6658 TEL0263-82-3131 FAX0263-82-6622
<http://www.city.azumino.nagano.jp>

一般社団法人 **安曇野市観光協会**
長野県安曇野市穂高5952-3 TEL0263-82-3133 FAX0263-87-9361
<http://www.azumino-e-tabi.net>

安曇野市観光情報センター TEL0263-82-9363